

## 12.16 日本共産党演説会での演説大要

皆さんこんにちは。県議団長の斉藤信でございます。来年の参院選で紙智子さんを必ず当選させ、盛岡市議の5議席確保、知事選そして県議選を勝ち抜く決意です。みなさんのご支援をよろしくお願いいたします。

前回3年前の県議選で3人の県議団となり、県政における日本共産党の存在感が増しました。そして復興与党・県政与党としての大きな役割を果たすことができました。

### 第一に、県政最大の課題である東日本大震災津波からの復興の取り組みです。

被災者の医療費・介護保険利用料の免除を今年も8年間継続実施してきましたが、来年も継続実施することになりました。これは、被災者の命と暮らしを守る最大の成果です。また、県民の運動と日本共産党の共同の成果でもあります。この土台には達増県政が「被災者一人一人の幸福追求権を保障する」という憲法の立場に立った基本方針がありました。

11月11～12日、大槌町のホテルを会場に災害対策全国交流集會が開かれ、熊本県から北海道まで全国から170人が参加しました。その時のスローガンは「岩手のたたかいに学ぼう」でした。

12月県議会で、これまでの復興の取り組みの検証を行いました。岩手県が国に先駆けて取り組んできた事業がたくさんあります。津波で漁船も養殖施設も壊滅しました。漁民は最初は途方に暮れていましたけれども、漁業の再建へ自ら漁船の確保に取り組み始めましたが国は全く動きませんでした。日本共産党沿岸地方議員団が6月2日、漁船の確保や養殖施設整備への全面的な支援を求める申し入れを行いました。その直後、6月8日に臨時県議會が開かれ、共同利用漁船や養殖施設整備の344億円余の補正予算が盛り込まれました。これはその後、9月に国の制度となったものです。

高田・大槌・山田の被災した県立病院の再建は、今年の3月にすべてオープンしました。共産党の県議複数化と県民の運動によって、知事選・県議選の直後に実現したものです。

復興はまだ道半ばです。漁業・水産加工業の再建も商店街の再生も、これからが正念場です。今も、仮設店舗で226の事業者が営業しています。ところが国の支援が切れるというので退去が迫られる事態となりました。県議団は、5月と7月に2度にわたって中小企業庁と交渉し、仮設店舗への支援が来年度の概算要求に盛り込まれました。

災害公営住宅での孤独死が、今年15人に及んでいます。累計では33人です。孤独死を出さない高齢者・要支援者の見守りとコミュニティの確立のために引き続き全力を挙げて取り組みます。

**第二に、県民の命と暮らしを守るうえでもかけがえのない役割を果たしてきました。**

子どもの医療費窓口無料化の取り組みは、若いお母さん方の運動も広がり、昨年8月から就学前までの現物給付化がついに実現しました。9月県議会では来年8月から小学校卒業まで拡充することが示されました。要求実現のテンポが速まっています。中学校までの拡充のためのペナルティーはわずか1000万円です。連続的に中学校卒業までの窓口無料を実現させましょう。

35人学級実現の取り組みも、今年小学校5年生まで拡充されました。来年度は、中学校とともに小学校全学年で実施される見通しです。

**高すぎる国保税の問題では、今年度から県が国保財政に責任を持つ体制となりました。**12月県議会の一般質問で取り上げました。国保の実態は、年収400万円の4人家族の場合、中小企業の労働者が加入する協会けんぽでは20万円、盛岡市の国保税は40万円と2倍となっています。

達増知事も、低所得者・高齢者が多い国保が協会けんぽより高いのは、国保の構造的な問題で、国の責任による財政負担が必要だと答えました。高く払えない滞納者に対する5000世帯を超える短期保険証の発行や3800件を超える財産の差し押さえを行っています。やってはならない江戸時代の悪代官並みの悪政です。

税金の滞納は生活困難のシグナルです。私は、滋賀県野洲市が、債権管理条例を制定し、「滞納していただきありがとうございます」と言って滞納者の生活再建を支援し、滞納を解消している例を示し、「幸福」を県政のキーワードにするなら、こうした取り組みこそ必要と提起しました。達増知事は、「生活保護ドラマを続けてみていたので、岩手もそういう流れの中で後れを取らないようにしていきたい」と味のある答弁をしました。

**第三に、安倍政権を倒すために、市民と野党の共闘の実現に誠実に取り組んできたことです。**

4月以降毎月、4野党による野党共闘実現のための実務者会議を行ってきました。私と高田県議が参加しています。11月6日には、4野党本部に、本部間の野党共闘の協議を進めるように要請も行ってきました。12月10日には、臨時国会の強行採決に抗議する4野党合同の街頭演説も行いました。10月22日には沖縄知事選勝利報告会も開きました。

4野党は来年の参院選の候補者一本化を繰り返し確認しています。本気の共闘を岩手でも全国でも実現するために引き続き全力挙げます。

私たちは今、野党共闘の時代という新しい局面にいます。国民のたたかいを広げ、市民と野党の共闘を実現し勝利する、そのためにも日本共産党の躍進を勝ち取ることは特別の重要であり、簡単な課題ではありません。皆さんと力を合わせて、必ず勝利を切り開く決意を表明し、私の訴えといたします。ありがとうございました。